

国語問題

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. この問題冊子は 22 ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
3. 問題冊子および国語解答用紙（マークシート）と国語記述解答用紙が配布された後、各解答用紙の所定欄に座席番号・氏名・フリガナを正確に記入し、国語解答用紙（マークシート）の座席番号欄には座席番号を正しくマークしてください。
4. 解答は必ず国語解答用紙（マークシート）の指定された箇所に正しくマークし、記述式問題の解答は国語記述解答用紙に記述してください。マーク箇所を誤った解答は無効です。

5. マーク解答欄記入上の注意

- (1) 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書かないでください。例えば、

| |
|----|
| 20 |
|----|

 と表示のある問いに対して、③と解答する場合には、次の例のように**解答番号 20**の**解答欄**の③にマークしてください。

例

| 解答番号 | 解 | | | | | 答 | | | | | 欄 | | | | |
|------|--------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ | ⑬ | ⑭ | ⑮ |
| 20 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

- (2) 複数の解答がある場合も、同じ解答欄にマークしてください。ただし、指示された解答数より多くマークした場合は、その解答はすべて不正解となります。
 - (3) 解答用紙へのマークはすべて HB のシャープペンシルまたは鉛筆で行い、訂正する場合にはプラスチック製消しゴムで丁寧に消し、消しきずはきれいに取除いてください。
 - (4) 解答用紙は絶対に汚さないでください。また折り曲げたり破ったりしないでください。
 - (5) 解答欄の所定欄以外の余白部分は、何も記入しないでください。記入したり、汚したりすると解答用紙読み取り時の誤読の原因となり、採点できない場合があります。
6. 国語記述解答用紙については、注意事項をよく読み、指定された設問について解答しなさい。
 7. 試験時間中に退場することはできません。
 8. 問題冊子は必ず持ち帰ってください。
 9. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。

I 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

周囲の人々に認められるためには、彼らにとって価値のある行為が必要であり、その行為の基準となる価値観を理解していなければなりません。しかし、価値観が多様化した現代では、統一的な価値基準がなくなっているため、多くの人が、どのような行動に価値があるのかがわからず、認められるための指針を見出せないでいます。

見知らぬ土地で地図を失った旅人は、進むべき方向を見失い、不安なままさまようしかありません。道しるべとなるものを必死で探し、行動の指針を見出そうとするのですが、慣れない土地ではそれも難しいでしょう。⁽¹⁾そこで、たまたま出会ったその土地の人間に道を尋ね、それに従って行動します。その土地の人間が正しいというホシヨウ^(ア)はありませんが、不安を解消するには、相手の言葉を信じる以外に道はないのです。

現代に生きる多くの人もまた、この旅人のように、認められるための基準、指針を見出せないため、身近な人々の言葉を頼りにしています。家庭や学校、職場などにおいて、自分が最も出会う頻度の高い人々、身近な人々の言動を注意深く観察し、顔色をうかがい、彼らの気に入る行動、彼らに嫌われない行動を心がけるのです。

場の空気を読む、忖度^{そんたく}する、といった行動様式が一般化し、世の中で常識化されているのも、こうした身近な人々に対する承認不安に起因しています。いまや世間の価値観では、場の空気を読む人間ほど高く評価されるのです。

ただ、⁽²⁾日本の社会ではもともと身近な人々の承認に左右されやすい面がありました。⁽¹⁾タクバツな日本研究で知られるルース・ベネディクトは、「日本人は、至上命令と^{*}黄金律のたぐいに訴えることはしない。良しとされる行動は、行動の場となる領域に左右される」(『菊と刀』)と書いています。また、欧米人が内面的な罪の意識から行動するのに対し、日本人は周囲の人々に対する恥の意識から行動する、とも述べています。「恥は周囲の人々の批判に対する反応」であり、日本人はキリスト教のような明確な価値基準を持たず、周囲の人々の反応次第で行動を決めている、というわけです。

中根千枝^{ちえ}の名著『タテ社会の人間関係』にも、「日本においては、どんなに一定の主義・思想を錦の御旗としている集団でも、その集団の命は「その主義(思想) 自体に個人が忠実である」ことではなく、むしろお互いの人間関係自体にある」(『タテ社会の人間関係』)と書いてあります。日本人は「ウチ」「ヨソ」の意識が強く、身近な人間関係である「ウチ」の人間には過剰に気をつかうのに、「ヨソ」者には冷たい態度をとる、と

いうのです。

『菊と刀』も『タテ社会の人間関係』も五十年以上前に書かれているという事実は、日本ではもともと身近な人間の承認を過剰に気にする傾向があることを示しています。現在では、かつてほど世間の承認を過剰に気にする必要はありませんが、それでも強い承認不安から、より身近な小さな人間関係の承認ばかりを気にするようになっていきます。

コロナウイルスの影響により、世界中が自粛^{しよく}、リモート、マスクの着用を義務づけられたとき、多くの日本人は律義にそうした行動を遂行しました。真夏の汗ばむ日も、さほど人が集まっていない道端でもマスクを着用し、たまにはめをはずした人たちを目にすると、厳しい攻撃的な批判が飛び交います。これは、衛生観念が高いから、というだけではなく、承認不安が強く、身近な人々に同調する文化が根づいているという、あまり嬉^{うれ}しくない理由からそうしている面もあるのです。

いずれにせよ、日本では価値観の多様化にともない、身近な人々の承認を過剰なまでに気にした行動にハクシヤ^ウがかかっています。しかも、かつてほど世間の価値観も信頼できず、自分なりの価値観に従って生きるべきだ、という考えを持つ人も少なくありません。だからヨケイ^ウに自由と承認が葛藤し、苦しんでいるのです。

いったいなぜこのような状況になったのでしょうか。今度は欧米の歴史に目を向け、もう一度、時代の流れを追いながら整理し、現在の社会状況について考えてみましょう。

すでに述べたように、近代以前の⁽⁴⁾価値観が一元化された世界では、その価値基準に沿った行動しか許されなかったため、自由に行動することはできませんでした。しかし、その価値観に合わせて行動していれば、周囲から認められ、自分の価値を見出すことができます。特に宗教的価値観の影響は大きく、ヨーロッパにおけるキリスト教、中東地域のイスラム教、インドのヒンズー教など、宗教は古代からその社会の行動の価値をはかる重要な基準だったのです。

A 科学の発達とともに、こうした宗教的な価値観の絶対性はゆらぎ、それと同時に、人間は自由に生きる権利がある、という考え方が生まれました。啓蒙思想^{もうちう}の広がりとともに、自由に生きられる社会が構想され、世界は徐々に「自由な社会」を理想とするようになったのです。

こうして、フランス革命やアメリカ独立戦争などの市民革命がおこり、旧世界が打倒されていきました。そして、絶対的な権威や価値観がゆらぎ、個人の価値観、個人の自由を尊重する民主主義の社会が生まれます。これが近代社会の幕開けでした。

B、近代になっても最初は伝統的価値観が根強く残っていましたので、その価値観に反する考え方、新しい生き方を示せば、社会から批判され、自分勝手な利己主義と見なされました。制度的には自由な社会になりましたが、多くの人々の価値観は古いままだったのです。それも当然でしょう。自分の信じてきた古い価値観を否定すれば、アイデンティティがゆらぎ、強い承認不安に襲われるわけですから、新しい価値観や生き方を敵視する人が多かったのも無理はありません。

また、自由に生きようとする人も、なかなか自分の考えや生き方を認めてもらえないため、承認不安を抱かざるを得ませんでした。「個人の自由」と「社会の承認」が対立し、自由と承認の葛藤に悩まされる人が増えていったのです。

やがて二十世紀になると、科学技術の進歩、資本主義社会の発展、二度の世界大戦を経て、伝統的価値観は徐々に解体されていきます。そして、ライフスタイルは急速に変化し、多様な職業、多様な娯楽が増加し、誰もが自分の職業を自由に選び、自分なりの楽しみを見つけられるようになりました。新たな価値観が次々に現れては消える、そんな時代が幕を開けたのです。

C、自由に生きる可能性が本格的に整ってきたのですが、価値観の多様化にともなって、承認不安はますます大きくなりました。

社会は個人の自由を大幅に認めはじめ、社会に対するヨクアツ感⁽⁴⁾、社会との葛藤は薄れましたし、多くの場面で自由に行動できるようになったのも事実ですが、今度は承認の基準となる社会の価値観が不透明になったので、どうすれば周囲に自分の価値を認めてもらえるのか、それがわからなくなってしまったのです。

⁽⁵⁾ 承認不安はアイデンティティの不安とも密接に関係しています。

近代以前なら、共通の社会規範・価値観によってアイデンティティも明確でしたが、そうした大きな価値観がなくなると、私たちは根無し草ようになり、自分が何者なのかを自分で探し求めなければなりません。しかも、自由な社会であるはずなのに、「自分らしく生きる」とか「個性が大事だ」などと言われながら、独自のアイデンティティを見出す必要性に迫られています。

哲学者のチャールズ・テイラーも、近代以前は「アイデンティティが、それとして主題化されるに値するほどの疑わしさを持たなかった」が、近代ではアイデンティティが他者との対話的な関係、承認に依存するようになったのだと述べています。「内面において生み出されるアイデンティティの理念の発展が承認に新たな重要性を付与するのは、このゆえである」(「承認をめぐる政治」『マルチカルチュラリズム』)というのです。

このように、現代は自分の固有性、独自性を他者に認めてもらわなければ、自分のアイデンティティがはつきりしない時代です。そのため、他

人の目を気にし、周囲の評価に怯^{おそ}えるばかりで、なかなか自由に行動することができなくなっています。もはや私たちは、社会的な価値観に制約されず、社会の評価、承認をさほど怖れていないのですが、身のまわりにいる人々に対しては、強い承認不安を抱いているのです。

(山竹伸二『ひとはなぜ「認められたい」のか』より。出題にあたって本文を一部改変した)

*注1 黄金律 人からしてほしいと思うことをすべての人々にせよ、というキリスト教倫理の原理。

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)・(オ)のカタカナは漢字でどう書くか。解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせとなる漢字を二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(ア)

(イ)

(ウ)

(エ)

(オ)

(解答例) コウケン

- ① 高
- ② 貢
- ③ 工
- ④ 功
- ⑤ 幸
- ⑥ 猷
- ⑦ 権
- ⑧ 堅
- ⑨ 謙
- ⑩ 件

答 ② ⑥

(ア) ホシヨウ

- ① 帆
- ② 穂
- ③ 保
- ④ 歩
- ⑤ 捕
- ⑥ 生
- ⑦ 証
- ⑧ 章
- ⑨ 照
- ⑩ 障

(イ) タクバツ

- ① 宅
- ② 卓
- ③ 沢
- ④ 拓
- ⑤ 託
- ⑥ 罰
- ⑦ 閥
- ⑧ 伐
- ⑨ 拔
- ⑩ 末

(ウ) ハクシヤ

- ① 白
- ② 拍
- ③ 薄
- ④ 博
- ⑤ 伯
- ⑥ 社
- ⑦ 謝
- ⑧ 者
- ⑨ 車
- ⑩ 写

(エ) ヨケイ

- ① 四
- ② 世
- ③ 夜
- ④ 代
- ⑤ 余
- ⑥ 繼
- ⑦ 軽
- ⑧ 敬
- ⑨ 刑
- ⑩ 計

(オ) ヨクアツ

- ① 抑
- ② 翌
- ③ 欲
- ④ 翼
- ⑤ 浴
- ⑥ 圧
- ⑦ 厚
- ⑧ 暑
- ⑨ 熱
- ⑩ 温

問二 空欄 **A**・**B**・**C** に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

6

- ① A したがって B それゆえ C こうして
- ② A しかし B とはいえ C こうして
- ③ A したがって B それゆえ C ところが
- ④ A しかし B とはいえ C ところが

問三 傍線部(1)「そこで、たまたま出会ったその土地の人間に道を尋ね、それに従って行動します」とあるが、この比喩が示す本文の内容として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- ① 目的を達成する方法がわからないため、その方法を身近な人々に尋ね、それを基準にして行動する。
- ② どうしたら他人に認められるかがわからないため、身近な人々の言葉を信じ、それを基準にして行動する。
- ③ 地図をなくしてしまったために目的地の場所がわからず、身近な人々に尋ね、それを基準にして行動する。
- ④ 学校や職場が変わると勉強や仕事が変わらなくなるため、身近な人々の言動を観察し、それを基準にして行動する。

問四 傍線部(2)「日本の社会ではもともと身近な人々の承認に左右されやすい面がありました」とあるが、それは具体的にどのようなことをいうのか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- ① 日本の社会では周囲の人々の反応よりも至上命令を重視して行動の指針とするということ
- ② 日本の社会では周囲の人々に対する恥の意識を互いの人間関係よりも優先させるということ
- ③ 日本の社会では行動の際に罪の意識よりも恥の意識を重視するということ
- ④ 日本の社会では黄金律などによって行動を決めるのではなく、「ヨソ」者に対する恥の意識から行動を決めるということ

問五 傍線部(3)「多くの日本人は律義にそうした行動を遂行しました」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- ① コロナウイルスの影響により、世界中でマスクの着用を義務づけられたから
- ② 身近な人々に同調し、嫌われない行動を心がける文化が根づいているから
- ③ 衛生観念が高く、はめを外した人を見ると攻撃せずにはいられない潔癖さがあるから
- ④ コロナウイルスに関する情報が信頼できないため、感染を防ぐためには常にマスクを着用する必要があると考えたから

問六 傍線部(4)「価値観が一元化された世界」とあるが、それはどのような世界をいうのか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- ① 宗教など社会の統一的な価値観に従っていれば、他者から認められていた世界
- ② 価値観が至上命令や黄金律によって決められ、行動の場となる領域にも左右される世界
- ③ 宗教的な価値観の絶対性がゆらぎ、人間は自由に生きる権利がある、という考え方が生まれた世界
- ④ 制度的には自由な社会になり、多くの人々が個性を輝かせることに希望を抱いた世界

問七 傍線部(5)「承認不安はアイデンティティの不安とも密接に関係しています」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- ① アイデンティティの確立のためには同じ価値観を持つ仲間が必要だが、価値観の多様化に伴い、そうした仲間を見つけることが難しくなったから
- ② 多様な職業、多様な娯楽が増加し、誰もが自分の職業を自由に選び、自分なりの楽しみを見つけられるようになったから
- ③ アイデンティティを形成する際の基準であった共通の社会規範・価値観が失われたため、その代替として他者の承認を必要とするようになったから
- ④ 「個人の自由」と旧来の価値観に基づく「社会の承認」が対立し、自由と承認の葛藤に悩まされる人が増えていったから

II 次の文章は、井上靖「姨捨」の一部である。よく読んで後の設問に答えなさい。

私が初めて姨捨^{*1}山の棄老伝説を耳にしたのは一体何時頃のことであつたらうか。私の郷里は伊豆半島の中央部の山村で、幼時私はそこで育つたが、半島西海岸の土肥^{とひ}地方にも、往時老人を山に棄^すてたという話が語り伝えられており、おそらくはその話と一緒にあって、姨捨山の伝説は私の耳にはいり、私の小さい心を悲しみでふくらませたようである。

(中略)

私は実際には長いこと篠井線の姨捨駅も、その附近も知らなかった。この地方に旅行することはあつたが、いつも夜にぶつかることが多く、昼間の場合は気が付かないうちに姨捨駅を通過して、姨捨山という土地には縁がないままに過ぎていた。

その後、姨捨の棄老伝説が私の頭に蘇^{よみがえ}って来る機縁を作ってくれたのは母であつた。

母は何かの拍子にふと、

「姨捨山⁽¹⁾って月の名所だというから、老人はそこへ棄てられても、案外悦^{よろこ}んでいたかも知れませんよ。今でも老人が捨てられるというお触れがあるなら、私は悦んで出掛けて行きますよ。一人で住めるだけでもいい。それに棄てられたと思えば、諦めもいいしね」

そう言ったことがある。母は七十歳だつた。母の言葉はそれを聞く家人の耳には一様に皮肉に響いた。その座には私の弟妹たちも居たが、みなはつとして衝かれたような表情を取つた。戦後の何かと物の足らぬ時でもあり、家族制度への一般の考え方もヒステリックな変わり方を見せている時で、老人夫婦と若い者たちとの間に起る小悶着^{せもん}は、私の家庭でも決して例外ではなかつたが、しかし表だつてこれと言つて母親に家庭脱出を考えさせるような何の問題もあるわけではなかつた。おそらく母は、自分が姨捨の説話の世界では、丁度山に棄てられる七十歳になつているとに気づき、生来の自尊心の強さと負けん気から、その説話にと言うより、それに何か似通つて来ている戦後の時代の雰囲気というものに瞬間挑戦する気になつたのではないかと思われた。

子供の絵本に描かれてあつた老婆のように、母親は髪こそ白いが、艶々した肌と皺^{しわ}一つない若々しい顔を持つていた。私は暫^{しばら}く言葉もなく、その母の顔を見守つていた。生来老人嫌いの母であつたが、今や彼女自身年齢から言え^(a)ばれつきとした老人であつた。私は、自分の老齢を意識し、それに反抗しようとした、そんな母が哀れに思われた。

信濃の姨捨というところが、私に妙に気になり出したのはそれからのことである。

(中略)

私が姥捨附近を通過する時、例外なく私を襲って来る感慨は、必ずその中に老いた母が坐^{すわ}っていた。ある時私は姥捨駅を通過する時、自分を母を背負い、その附近をさまよい歩いている情景を眼に浮かべた。

勿論時代は太古である。丘陵の中腹から裾^{すそ}に点在している現在の人家の茂りは見られず、^(ア)コウリヨウたる原野が広がっている。しかも夜で月光が絵本『おぼすて山』の挿絵のように辺り一面に青く降り、私と母の影だけが黒い。

「一体、わたしをどこへ棄てようというの？」

と、母は言う。七十を過ぎて体全体が小さくなり、その体重は心細いほど軽いが、私はともかく一人の人間を背負って方々歩き廻^{まわ}った果てなのでひどく疲れている。一足歩^{たひ}く度に足許^{あしもと}がふらつく。

「ここにしますか。この辺に小さい小屋を建てたら——」

私と言うと、

「厭^{いや}、こんな場所！」

母の声は若い。体は弱っているが、気持は確^{しつ}りしていて、生れ付きの妥協のなさは、自分が棄てられるこのような場合にも、いささかの衰えを見せていない。

「崖^{そぼ}の傍では、雨の時山崩れでもしたら危ないじゃありませんか！ もっと気の利いたところはないものかしら」

「それがないんです。大体、お母さんの望みは贅沢^{ぜいたく}ですよ。やはり、先刻^{さっき}見た寺の離れを借りることにしたらどうですか」

「おお、いや、厭！」

母は背中で、わが儘^{まま}な子供のように手足をばたつかせる。

「あそこは夏には藪蚊^{やぶか}が多いと思うの。それに建物も古いし、部屋も暗くて陰気じゃありませんか。他人のことだと思って、不親切ね、貴方^{あなた}は」

私は途方^(b)に暮れてしまおう。

(中略)

「だから家を借りるのは諦めて、気に入る場所を探し、そこへ私が小屋を建ててあげようと言っているでしょう。それを、どこへ行っても文句ばかり言つて」

「文句だつて言いますよ、老人ですもの。——ああ、ほんとに何処か一人きりで静かに住める場所はないものかしら。もっと親身になつて探しておくれよ。——ああ、腰が痛いわ。もっと軽くふんわりと背負つておくれ。おお、寒くなった。月の光がちくちくと肌を刺すような気がする」

「暴れないで静かにして下さいよ。私も疲れているんです。お母さんは背負われているからいいが、私の方は背負っているんですからね。お願いです。やはり、家へ帰ることにして下さい。みんなもどんなに安心するでしょう」

「厭！」

またしてもぴしゃりと母は言った。

「厭でも知りません。こんなところを一晚中うろついていられますか。本当に私は帰りますよ」

すると、母は急に打つて変つた弱々しい声を張り上げる。

(イ)「カンニンしておくれ。それだけはカンニンしておくれ。どうか家へだけは連れ戻さないでくれ。もうなんにも言いません。どんなところでも結構です。棄てておくれ。わが儘は言いません。あそこに小屋が見える。あそこでもいい。あそこへ棄てておくれ」

「あの小屋は先刻見た時隙間風が冷たいとおっしゃったじゃありませんか。それに雨漏りもする！」

「どうせ気には入らないが、でも、仕方がない。もうシンボウします。(ウ)一軒家だから、その点は静かにのんびりと住めるでしょう」

「だが、あそこはやはりひどいですよ。子供として母親をあそこには棄てられません」

「ひどくても構わない。さ、早く、あそこへ棄てて行つておくれ」

そう母は言う。こんどはそこに佇んでいる私の体に、月光が刺すように痛く沁み込んで来る。

——私の眼に浮かんで来たのは、こうした私と母との一幕である。私と私の背に負われている母との会話は自然にすらすると私の脳裡に流れ出て来たものである。母はわが儘であるが、その表情には真剣なものがある。棄てておくれ、棄てておくれと言っている母のせがみ方には、ある実

感が滲み出ている。

私はわれに返ると、空想の中の母に、いかにも自然に母らしい性格が滲み出ていることが可笑しかった。姨捨を舞台とした私の空想的一幕物は、例の棄老説話の持つ主題とはかなり遠く隔たっていた。私の場合は母自らが棄てられることを望んでいるからである。棄てられたいと言ひ張つて諾かないのである。私はそんな背の母を持て余して、姨捨の丘陵地帯をさまよい歩いているのであった。しかし、その可笑しさとは別に、自分の心のどこかに氷の小さい固塊かたまりのようなものが置かれてあるのを私は感じた。可笑しさが消えると、それに代つて、冷んやりした思いが次第に心の全面に拡がって来そうであつた。

私は自分が棄てられたいとせがんでいる母を想像したことが厭であつた。**A** 自分が母を棄てようとしている場面を想像する方が、まだしも気はらくであるかも知れなかつた。

それにしても、私はどうしてそんな母を想像したのであるか。私は長い間そのことを考えていた。そして私は私の背の上に、母に代わつて自分を置いてみた。私が老人になつたら、今空想した母のように或いは自分あるはなるかも知れないと思つた。

この夏私は九州の北部の、遠賀川おんががわに沿つた炭坑町へ講演に出掛けて行き、その町の旅館で二年ぶりで妹の清子に会つた。

清子は私の四人兄妹の末の妹である。戦時中結婚して二児を儲けたが、事情があつて、夫と子供を置いて婚家を飛び出し、一時実家である私の両親もとの許に帰つていたが、こんどは、自活するということもとを理由にそこを飛び出してゐた。

私は小さい時から兄妹中でこの妹が一番好きだったが、妹の勝手な行動には許せないものを感じてゐた。絶交とか絶縁とかそんな表立つたものは何もなかつたが、清子の方も持前の敏感さで私の氣持を察してゐるらしく、家を出てからは私のところへは一本の手紙も寄越さなかつた。私の方も清子が北九州で働いてゐるといふこと以外何も知らなかつた。

B、私は九州へ旅行すると決つた時、妹に会つて来ようと思つた。**C** 東京を発つ前に、母から住所を聞いて、電報で会いたい旨むねを連絡して置いたのである。私は清子が訪ねて来るかも知れないし、来ないかも知れないと思つた。

その夜、講演会場から旅館へ戻ると、部屋の隅の縁近くところに妹は予想してゐたより明るい顔で、小ざつぱりした身なりをして坐つてゐた。グレイのスカートを穿はき、純白の毛糸のセーターを着、髪は流行のショートカットで、実際の年齢は三十四歳なのに、一見すると二十四、五歳にしか見えなかつた。

(中略)

私たちは久しぶりで会った兄妹としてそれにふさわしい口調で話した。彼女の破鏡^{*2}についても、その後の行動についても、私は兄としての立場から言うべきことは沢山^{たくさん}あったが、それには一切触れなかった。すべては、今更どうなる問題でもなかった。二人の子供まで残して家を飛び出したくらいだから、彼女には彼女なりの覚悟もあり、考え方もあると思われた。

話題には自然両親や姉の事ばかりが選ばれた。

「おふくろは相変らず姨捨だよ」

と私は言った。

姨捨という言葉は、母が姨捨に棄てられたいと言った時以来、時々兄妹の間では使われていた、子供たちには便利な言葉であった。⁽²⁾実際に母が姨捨に棄てられたいと言ったことはいかにも母らしいことで、その性格のいいところをも、悪いところをもそれはタンテキ⁽¹⁾に現わしていた。従って、姨捨だよという言葉の中には、母の自尊心や気儘や気難しさ^{*3}えの軽い非難と、反対にそれらを肯定する子供たちだけに通ずる母への^{いたわ}気持も含まれていた。

清子は私の言葉で一瞬可笑しさを嘔み殺したような表情を取ったが、

「姨捨と言えば、わたし、母さんはあの時、本当に姨捨山に棄てられたいと思ったのではなかったかと思うわ」と言った。

「どうして？」

「なぜか、そんな気がしますの。本当に一人きりだけになって、一切の煩わしい^{わづら}ことから離れ、心から、どこかの山の奥へ棄てられたかったのではないかしら」

⁽³⁾「よせよ」

思わず私は言った。清子の言い方に何となく、こちらをはっとさせるようなものがあつたからである。

「前から、君はそんなことを考えていたのか」

「いいえ、たつた今です。兄さんが姨捨という言葉を出した時、ふと、わたし、そんな気がしたんです」

私は、いつか自分が母を背負って姥捨附近を歩いたあの空想の一場面を想い出していた。そしてあの時感じた冷んやりした思いが再び自分を襲って来るのを感じた。

(出題にあたって本文を一部改変した)

*注1 姨捨山の棄老伝説

本文の別の箇所におけるこの伝説の説明を要約すると以下のとおりである。「昔、信濃の国に老人嫌いな国王がおり、老人が七十歳になると山に棄てさせた。しかし、隣国から難題を持ちかけられた際、母親を棄てることができなかつたある若者の老母の智慧えによつて国の難を救うことができ、この掟おきてを廃したという」。

2 破鏡

夫婦が離別すること。

3 え

原文のまま。

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)のカタカナは漢字でどう書くか。解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせとなる漢字を二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(ア) 12

(イ) 13

(ウ) 14

(エ) 15

(解答例) コウケン

- ① 高
- ② 貢
- ③ 工
- ④ 功
- ⑤ 幸
- ⑥ 猷
- ⑦ 権
- ⑧ 堅
- ⑨ 謙
- ⑩ 件

答 ② ⑥

(ア) コウリヨウ

- ① 香
- ② 公
- ③ 交
- ④ 荒
- ⑤ 候
- ⑥ 陵
- ⑦ 了
- ⑧ 領
- ⑨ 涼
- ⑩ 料

(イ) カンニン

- ① 感
- ② 閑
- ③ 堪
- ④ 歛
- ⑤ 勘
- ⑥ 忍
- ⑦ 任
- ⑧ 認
- ⑨ 人
- ⑩ 仁

(ウ) シンボウ

- ① 新
- ② 辛
- ③ 心
- ④ 申
- ⑤ 身
- ⑥ 房
- ⑦ 謀
- ⑧ 抱
- ⑨ 防
- ⑩ 妨

(エ) タンテキ

- ① 単
- ② 胆
- ③ 淡
- ④ 短
- ⑤ 端
- ⑥ 摘
- ⑦ 的
- ⑧ 笛
- ⑨ 適
- ⑩ 敵

問二 傍線部(a)・(b)の本文中における意味として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(a)

| |
|----|
| 16 |
|----|

(b)

| |
|----|
| 17 |
|----|

(a) れつきとした

① 哀れなさま

② 歴史が表れているさま

③ はつきりしているさま

④ しみじみするさま

⑤ 心から嫌悪するさま

(b) 途方に暮れてしまう

① 方向の感覚がなくなって、困ってしまう。

② 要求に応えられず、困ってしまう。

③ 途中から先に進めず、困ってしまう。

④ いつの間にか暗くなって、困ってしまう。

⑤ どうしてよいかわからず、困ってしまう。

問三 空欄 **A**・**B**・**C** に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-----|
| ① | A | あいにく | B | ついに | C | そこで |
| ② | A | いっそ | B | そのため | C | または |
| ③ | A | かえって | B | ようやく | C | つまり |
| ④ | A | むしろ | B | しかし | C | そして |

問四 傍線部(1)「私は悦んで出掛けて行きますよ」とあるが、主人公の「私」は母の言葉をどのように思ったか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

- ① 丁度七十歳になったことで、自分も棄てられることに気付いたのだと思った。
- ② 若々しい自分を意識し、一人でも住めると思わせようとしたのだと思った。
- ③ 説話と類似性があるような時代の流れに反抗しようとしたのだと思った。
- ④ 若い者たちとの間に起こる悶着で、ヒステリックになっているのだと思った。

問五 傍線部(2)「子供たちには便利な言葉であった」とあるが、なぜ「娘捨」という言葉が便利な言葉なのか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

- ① 兄妹で話題のない時に棄老伝説について話すことができるから
- ② あえて説明をしなくてもこの言葉に母らしさが表現されているから
- ③ 七十歳になり、年老いた母がかわいそうだと思いう気持ち共有できたから
- ④ 母の気位の高さを兄妹でこっそり話すには都合がよかったから

問六 傍線部(3)「よせよ」とあるが、主人公の「私」がこう言ったのはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

- ① 空想の中ですらすと自分の脳裏に流れ出て来た母との会話を妹が口にしたから
- ② 妹の可笑しさを噛み殺したような表情が、はっとするほど母と似てきたと感じたから
- ③ 母が生来の負けん気から捨てられたいと言ったことを、妹が真に受けていると思ったから
- ④ 母が本当に捨てられたいと思ったのではないかという妹の言葉が自分の想像と同じだったから

Ⅲ 以下のそれぞれの設問に答えなさい。

問一 次の(1)～(4)の文のカタカナ部分にあてはまる漢字として最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1)

(2)

(3)

(4)

(1) 次の新製品のソ₁求点は、外観と性能の両立である。

- ① 訴
- ② 疎
- ③ 素
- ④ 狙

(2) 外交問題解決のため、長期にわたって折シ₁ョウを重ねた。

- ① 尚
- ② 衝
- ③ 涉
- ④ 紹

(3) この企画にはハ₁ン雑な手続きが必要だ。

- ① 反
- ② 範
- ③ 煩
- ④ 汎

(4) わが軍は攻撃を重視したフ₁陣を整えた。

- ① 赴
- ② 布
- ③ 普
- ④ 扶

問二 次の①～⑨の言葉の中から、謙讓表現ではないものを二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

26

- ① 拝読
- ② 小生
- ③ 拙宅
- ④ 敬老
- ⑤ 弊社
- ⑥ 粗品
- ⑦ 寸志
- ⑧ 薄謝
- ⑨ 讓歩

問三 次の①～⑦の文の中から、敬語が適切に使用されているものを二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

27

- ① 社長、これから部長がいらつしやいます。
- ② 私の父が申しております。
- ③ お客様、お飲みものはいただきますか。
- ④ 苦情がございましたら、どうぞ申し出てください。
- ⑤ 皇室の方が、美術館で絵画を拝見なさいました。
- ⑥ 先生、どちらへいらつしやるのですか。
- ⑦ いつ、その話をお聞きになりましたか。

問四 次の(1)～(3)の慣用句の使い方として最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1)

(2)

(3)

(1) 夢枕に立つ

- ① 私はあらかじめ夢枕に立つと心地よく眠れるので、毎晩の日課にしている。
- ② 昨年亡くなった愛犬を懐かしむため、私は度々夢枕に立つことがある。
- ③ 大海原を眺めていると、夢枕に立つかのように自然の美しさに魅了される。
- ④ 先日亡き祖父が夢枕に立ち、話ができたことは、私にとって大きな癒やしとなった。

(2) 鼻に掛ける

- ① 過酷な状況を鼻に掛けて、事業改善のための資金援助を希望している。
- ② 都会から来たことを鼻に掛けた言動で、彼らは村の人間から敬遠されている。
- ③ 彼のプレゼンテーションは、ライバルを鼻に掛けるほど洗練されていた。
- ④ 自分の人生の転換期において、彼女は鼻に掛ける素敵な一言を言ってくれた。

(3) 立板に水

- ① 彼の意見は批判されたが、彼は立板に水のように構わず進んでいった。
- ② 私の意見は、すでに大きな問題が起こった友人に対しては立板に水だった。
- ③ 普段は静かな友人が、デイベートでは立板に水のように意見を述べていた。
- ④ 彼の人柄は立板に水のように真^まっ直^すぐで、周囲の人々から信頼されている。

